

# 観光のトビウ



【特集】市民インタビュー

観光からツーリズムに

民間目線で、羽村の潜在的魅力を発掘

羽村市観光協会

P 2

- 審議した主な議案
  - 市長提出議案 P 4
  - 議員提出議案 P 5
  - 議決結果一覧 P 6
- 議会活動報告 P 7
- 市政について問う  
《一般質問》 P 8
- 常任委員会  
行政視察報告 P 17

No.123

平成 31 年 (2019 年)  
2 月 1 日発行  
(通巻 232 号)

# 観

## 光からリズムに

民間目線で、羽村の潜在的魅力を発掘

### 羽村市観光協会

羽村駅西口の羽村市観光案内所は、市内観光の拠点です。案内所の運営や「はむら花と水のまつり」など、観光振興のために活動されている羽村市観光協会の皆さんにお話しを伺いました。

(11月7日)

市内には、さまざまな活動を通じて市民の暮らしを支えている方が大勢います。議会として、そのような方々の活動を知り、また市民の皆さんにもご紹介しながら、議会の役割を考えていきたいと思えます。今回は経済委員会が担当しました。

【表紙の写真】

羽村駅西口の羽村市観光案内所で。協会の皆さん  
(平成30年11月7日撮影)

#### 民間目線の「観光はむら」づくり

##### キツカケは

宮田 司さん(会長)



オープンガーデンが縁で観光協会に参加。平成29年4月に法人化し、「一般社団法人羽村市観光協会」として新たにスタートしました。



た。年間予算は約3600万円。市、商工会の補助金のほか収益事業が可能になり「花と水のまつり」の臨時駐車場、出店料で1000万円ほどの収入でした。一方で管理・運営等の経費も増加。市の活性化のために、大変ですがやりがいもあります。

和田 豊さん(副会長)



町内会連合会会長としての役職です。観光は新たな体験だが、民間目線で球根

植えなどに参加している。羽村駅西口に観光案内所を開設、29年度は約7400人が訪れ、羽村市のアピールが由来しました。

池田 恒雄さん(副会長)



商工会副会長としての観光振興役です。花のまち羽村なので、私も花が好き。花を見る来訪客の笑顔もいい。靴屋を営むが、店先は靴ではなく草花。花屋さんかと言われる(笑)。

佐藤裕子さん(事務局員)



平成30年度の「花と水のまつり」期間中の3〜5月は、約5000人が来所。案内所

のスタッフ3人と協力員が総出で対応しました。羽村を楽しんでいただけて、やりがいを感じます。玉川上水沿いに住む方は「羽村堰の分流点を見たい」と。子連れの方は動物公園に。草花丘陵ハイキングの方にはコースマップを渡します。



▲多摩川べりの桜を楽しむ人々 (3月)

▶観光ボランティア



▶チューリップ球根植え(11月)



▲40万本のチューリップとこいのぼりの共演(4月)

## 法人化して2年 観光事業の課題は

**宮田** 「花と水のまつり」は、JR八王子支社管内約90駅にポスターが貼られ15万人の観光客でした。去年は桜の開花が早く、気をもんだ。東京都水道局管理地なので借用期間があり、チューリップ畑は田植え準備のため4月25日には返却。開花していても切るので「なぜ？もつたない」の意見が寄せられる。車の流入も多いので、警備員を配置し安全対策。地元の理解も必要で、気が抜けません。

**和田** 家族連れは動物公園のある羽村駅東口下車なので飲食店もある。熟年層は西口から多摩川に向かうが食事や休憩できる場所がない。羽村堰の上の市有地を有効利用するためにも、第一水門の上を通れるといいのですが。

**池田** その市有地にサイクリングステーションが欲しい。多摩川下流からのサイクリストが休息、食事をし、戻るもよし、奥多摩に向かうもよし。この地域で一泊してもえれば、なおうれしですね。

**佐藤** 案内所の充実です。近隣案内所も見参考になっています。

### 観光から、滞在・交流型に

**池田** 春、夏の「花いっぱいコンクール」も観光協会の事業。入賞者マップがあればそれを見て巡れる。みんな笑顔になり、心も和む。地図にはお金もかかりません。

**和田** さくらまつりに、商工団体などに呼びかけ、スポンサー名入りの提灯200個を新調しました。

**宮田** 「花と水のまつり」が主要事業だが自然環境、史跡、民俗文化など有形無形の宝を掘り起こし、地域の特性を生かした観光資源に磨

### 一般社団法人 羽村市観光協会

観光事業で地域活性化に寄与することを目的に活動しています。

会員数 個人57人、団体・法人114件  
組織 理事・監事29人、協力員31人、観光ガイド11人  
年間事業費 約3600万円  
住所 羽村市羽東1-13-15  
電話 042-555-9667

### DATA

観光案内所来訪者 年間7400人(H29)  
市内観光客数 93万人  
(ツアー43万人・イベント50万人)  
西多摩地域観光客数(イベント除く)  
590万人(消費額337億円)



### インタビューを終えて

観光案内所は羽村の顔。来訪者にとって親切な説明や、観光ガイドの案内がよい思い出として残ります。協会役員や会員、ボランティアなど多くの関係者が羽村の魅力発信に向けて活動。民間発想の観光・ツーリズムに期待します。

\*\*\*\*\*

お忙しいところご協力いただき、ありがとうございました。

き上げたい。友好都市でのイベントにも積極的に参加し羽村市を紹介。今後は近隣自治体とも協力し、滞在・体験型の交流観光として、ツーリズムを目指したい。観光案内所の土・日開所も予定しています。

# 議案審議

- 12月定例会に市長から提出された議案は、条例に関する議案2件、補正予算に関する議案3件、その他の議案4件の、合わせて9件でした。すべてを可決しました。
  - 議員提出議案は、意見書2件を可決しました。
  - 審査した陳情1件は、不採択となりました。
- 主な議案の概要は次のとおりです。



## 市長提出議案

### ■ 企業誘致制度を充実

羽村市企業誘致促進に関する条例の一部を改正する条例

市内での新たな企業立地と雇用創出を促進していくため、条例の一部を改正するものです。

#### 【主な内容】

- (1) 企業誘致奨励金加算対象の拡大
- (2) 雇用促進奨励金加算対象の拡大
- (3) 失効日の延長

【施行日】 公布の日

【議決結果】 原案可決

## 質疑

**Q** 奨励金額を10%加算した企業が本社機能の移転を行った場合の効果は。

**A** 本社移転した場合には、法人市民税など一定の効果額があると試算している。波及効果としては、従業員の増加による市内消費活動の増加なども考えられる。

**Q** 近年の企業誘致の実績は。

**A** 年間1件ずつくらいだが、移転希望の問い合わせは、年々増えている。

### ■ 1億1560万円を増額

平成30年度羽村市一般会計

補正予算(第3号)

一般会計歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ1億1560万円を増額し、補正後の予算額を歳入歳出それぞれ231億8310万円とするものです。

【議決結果】 原案可決

#### 【主な内容】

##### ● 歳入

【国庫支出金】：障害福祉サービス費等負担金などを増額  
 【都支支出金】：障害福祉サービス費等負担金などを増額  
 【繰入金】：財政調整基金繰入金を増額

##### ● 歳出

【総務費】：コミュニティバスはむらんのバス停新設に伴う経費を計上  
 【民生費】：障害福祉サービス費や認知症対応型デイサービスセンター整備事業補助金などを計上  
 【土木費】：入居者の退去に伴い、市営住宅修繕料を増額  
 【消防費】：落雷により破損した防災行政無線機器の修繕料を計上  
 【教育費】：中学校での特別支援教室事業開始に伴う整備工事費等を計上

## ■生産緑地地区の区域の規模を300㎡以上に緩和

羽村市生産緑地地区に定めることのできる区域の規模に関する条例

都市緑地法等の一部を改正する法律の施行による生産緑地法の改正に伴い、生産緑地地区の区域の規模を500㎡以上から300㎡以上に緩和し、都市農地の保全を図るため条例を制定するものです。

【施行日】平成31年4月1日

【議決結果】原案可決

## ■契約金額を変更

福生都市計画事業羽村駅西口土地区画整理事業に関する業務委託（擁壁設置等）の変更契約について

業務委託費の精算に伴い、契約金額を変更するものです。

【変更内容】 公社に交付される都交付金が2200万円増額され、西口会計支出額を2937万円減額。盛土工事の追加やその他工事費の増減により、契約金額を737万円減額。

【変更前】 6億6081万8213円

【変更後】 6億5344万7319円

【議決結果】原案可決

## 質疑

Q 当初別工事の予定であった盛土工事を、議会への説明をせずに追加の工事として同じ業者に行わせたのか。

A 擁壁設置工事の付帯工事の中での軽微な変更と判断した。今後は必要に応じて議会に説明する。

## ■指定管理者を指定

羽村市弓道場の

指定管理者の指定について

【指定管理者の名称】

特定非営利活動法人羽村市体育協会

羽村市農産物直売所の

指定管理者の指定について

【指定管理者の名称】

羽村市農産物直売所運営委員会・西多摩農業協同組合

【指定の期間】

平成31年4月1日

～平成35年3月31日

【議決結果】原案可決

## 議員提出議案

### ■日米地位協定の見直しを求める意見書を衆・参議長等に提出

日米地位協定の見直しを求める意見書（抜粋）

今年7月、全国知事会は、日米地位協定を抜本的に見直すことを求めた。羽村市を含む「横田基地周辺市町連絡協議会」は、毎年、国および米軍に対し行っている「総合要請」の中で、日米地位協定とその運用についての適切な見直しを求め続けている。

羽村市議会としても、日米地位協定の適切な見直しを求めるものです。

1 日米地位協定の運用について適切な見直しを行い、米軍に対する国内法の適用、周辺自治体の意見を基地の運用に適切に反映する仕組みの整備を図ること。

2 日米合同委員会での合意事項について、国の責任において遵守状況を確認し、情報提供すること。

【提出先】 衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、外務大臣、防衛大臣

【議決結果】原案可決

### ■森林環境税の活用に関する意見書を東京都に提出

森林環境税の活用に関する意見書（抜粋）

国は平成31年度の税制改正において、（仮称）森林環境税及び（仮称）森林環境譲与税を創設することとしました。環境税及び譲与税の創設にあたり、次の事項に取り組みよう東京都に強く求めるものです。

3 東京都に交付される譲与税を活用し、林業従事者育成のための諸施策を強化すること。

【提出先】 東京都知事

【議決結果】原案可決

1 都内区市町村の譲与税の活用に関する担当窓口を設置すること。

2 都内の区市町村に交付される

■市長提出議案の議決結果

<全会一致となった議案>

議案	議決結果	議案	議決結果
羽村市企業誘致促進に関する条例の一部を改正する条例 ※P 4 参照	原案可決	平成 30 年度羽村市福生都市計画事業羽村駅西口土地区画整理事業会計補正予算(第 3 号) 歳入歳出それぞれ 7,369,000 円を減額し、補正後の予算額を歳入歳出それぞれ 1,255,608,000 円とする。	原案可決
羽村市生産緑地地区に定めることができる区域の規模に関する条例 ※P 5 参照		羽村市と青梅市との間におけるし尿処理に関する事務委託に関する規約について 羽村市のし尿処理を青梅市へ委託するため、両市の協議により規約を定める。 【施行日】平成 31 年 4 月 1 日	
平成 30 年度羽村市一般会計等補正予算(第 3 号) ※P 4 参照		羽村市弓道場の指定管理者の指定について ※P 5 参照	
平成 30 年度羽村市介護保険事業会計補正予算(第 3 号) 歳入歳出それぞれ 3,598,000 円を増額し、補正後の予算額を歳入歳出それぞれ 3,687,353,000 円とする。		羽村市農産物直売所の指定管理者の指定について ※P 5 参照	

<賛否の分かれた議案>

議案	会派名(数字は人数)									議決結果
	新	公	民	風	共	ネ	21	リ	世	
	(4)	(4)	(2)	(2)	(2)	(1)	(1)	(1)	(1)	
福生都市計画事業羽村駅西口土地区画整理事業に関する業務委託(擁壁設置等)の変更契約について ※P 5 参照	○	○	○	○	×	×	○	○	×	原案可決

■議員提出議案の議決結果

議員提出議案	議決結果
日米地位協定の見直しを求める意見書 ※P 5 参照	原案可決
森林環境税の活用を求める意見書 ※P 5 参照	原案可決

詳細はインターネット録画中継(12月7日・19日分) または会議録でご覧いただけます。  
◆インターネットで会議録をご覧になる場合は、「羽村市議会」→「会議録の検索と閲覧」→「平成30年第4回定例会」

■陳情の審議結果

陳情	審査した委員会	本会議での賛否									議決結果
		会派名(数字は人数)									
		新	公	民	風	共	ネ	21	リ	世	
		(4)	(4)	(2)	(2)	(2)	(1)	(1)	(1)	(1)	
「可燃ごみの共同処理に関する検討結果報告書」の再検討を求める陳情書の撤回について	厚生	○	○	○	○	○	○	○	○	○	承認
「議会による日立市の耐震対策制度の視察・調査のお願い」に関する陳情書	経済	×	×	×	×	□	□	□	×	□	不採択

凡例

■各会派の賛否 ■ 議案 / ○…賛成 ×…反対  
 ■会派名 ■ 陳情 / ○…採択 ×…不採択 □…趣旨採択  
 新…新公会 公…公明党 民…国民・立憲の会 風…新しい風 共…日本共産党  
 ネ…市民ネットワーク「いきいき広場」 21…羽村 21 リ…リフレッシュ羽村 世…世論

訂正とお詫び

122号の5ページに掲載した歳出の円グラフ中、「その他」の項目に誤りがありました。正しくは、(労働費・農林費・商工費・議会費・諸支出金)です。訂正してお詫びいたします。

# 議会活動報告

市議会議員は、定例会や臨時会のほかにも、各々が所属する委員会や一部事務組合等に関係する会議や視察、研修などにも出席しています。

## 平成30年11月1日～平成31年1月31日の主な活動

### 11月

- |        |  |     |   |
|--------|--|-----|---|
| 1日     | 行政視察受入れ（福井県敦賀市議会「羽村市動物公園の運営について」）  | 7日  | 第4回羽村市議会（定例会）4日目  |
| 2日     | 平成30年第2回瑞穂斎場組合議会定例会  | 11日 | 一般会計等予算審査特別委員会（補正予算）  |
| 5日     | 全国市議会議長会基地協議会関東部会総会<br>全国市議会議長会基地協議会関東部会視察                                   | 12日 | 第4回厚生委員会／第4回経済委員会<br>第4回総務委員会<br>総務委員会調査研究活動                |
| 6日     | 平成30年第2回羽村・瑞穂地区学校給食組合議会（定例会）   | 17日 | 第10回議会運営委員会   |
| 7日     | 市民インタビュー（羽村市観光協会）経済委員会<br>羽村私立保育園協議会と厚生委員会委員との懇談会                            | 19日 | 第4回羽村市議会（定例会）最終日  |
| 9日     | 行政視察受入れ（福岡県糸島市議会「ファミリー・サポート・センター事業について」）                                     | 20日 | 羽村市議会議員研修会（羽村市の公共交通のこれからについて）<br>市民インタビュー（はむらプレーパークの会）総務委員会 |
| 12日    | 平成30年第3回青梅、羽村地区工業用水道企業団定例会<br>三多摩上下水及び道路建設促進協議会第3委員会<br>全国市議会議長会基地協議会第92回理事会 | 21日 | 第10回広報委員会   |
| 14～15日 | 第13回全国市議会議長会研究フォーラム  | 22日 | 行政視察受入れ（青森県黒石市議会「市役所土日窓口開庁の実施について」）                         |
| 16日    | 第30回羽村市都市計画審議会<br>平成30年第2回福生病院組合議会定例会  | 27日 | 行政視察受入れ（あきる野市議会「多摩都市モノレールの延伸への対応について」）                      |
| 20日    | 東京市議会議長会定例総会<br>平成30年第2回西多摩衛生組合議会定例会・西多摩衛生組協議員全員協議会                          | 10日 | 平成31年第1回広報委員会   |
| 26日    | 第9回議会運営委員会   | 17日 | 行政視察受入れ（滋賀県米原市議会「コミュニティバスについて等」）                            |
| 27日    | 羽村市議会基地対策特別委員会行政視察（米軍横田基地）   | 21日 | 三多摩上下水及び道路建設促進協議会第3委員会<br>行政視察受入れ（岐阜県可児市議会「学期制の変更の経緯について等」） |
| 28日    | 行政視察受入れ（福岡県大牟田市議会「羽村市動物公園の運営について」）   | 22日 | 東京都三多摩地区消防運営協議会第二部会   |

### 1月

### 12月

- |    |                  |     |  |
|----|------------------|-----|--|
| 4日 | 第4回羽村市議会（定例会）初日  | 23日 | 行政視察受入れ（青森県青森市議会「コミュニティバスはむらんの運行について」） |
| 5日 | 第4回羽村市議会（定例会）2日目 | 28日 | 三多摩上下水及び道路建設促進協議会第2委員会                 |
| 6日 | 第4回羽村市議会（定例会）3日目 | 30日 | 三多摩上下水及び道路建設促進協議会第1委員会                 |

## 会派名簿

### 新 政 会

いん なみ しゅう た  
印南 修太  
とみ まつ たかし  
富松 崇  
はし もと ひろ たか  
橋本 弘山  
たぎ しま よしお  
瀧島 愛夫

### 公 明 党

なかし ま まさる  
中嶋 勝  
とみ なが のり まさ  
富永 訓正  
にし か わ みさほ  
西川美佐保  
いし い ひさお  
石居 尚郎

### 国民・立憲の会

おおつ か  
大塚あかね  
はせ ひら こうぞう  
馳平 耕三

### 新しい風

たかだ かずと  
高田 和登  
こみや くにあき  
小宮 國暉

### 日本共産党

はま なか じゅん  
浜中 順  
すずき たくや  
鈴木 拓也

### 市民ネットワーク 「いきいき広場」

もんま ひでこ  
門間 淑子

### 羽 村 21

みずの よしひろ  
水野 義裕

### リフレッシュ羽村

はま なか としお  
濱中 俊男

### 世 論

やまざき よういち  
山崎 陽一

◆会派とは、政治上の主義や政策が同じ議員の集まりで、議会活動を行う上での基礎となります。

# 一般質問

一般質問とは、市が実施している施策全般についての議員の質問です。  
 第4回定例会では、16人の議員が、  
 12月4日、5日、6日の3日間にわたり  
 一般質問を行いました。  
 その要旨をお伝えします。  
 ※原稿は、議員自身が要約し作成しています。



《Q》転倒予防のために「足指・爪のケア」の啓発を！  
 《A》周知していく！

大塚 あかね 議員（国民・立憲の会）



## 在宅医療・在宅介護 に関する諸課題について

「在宅医療・介護連携推進事業」が本格実施となったが、未実施の施策はいつ実施されるのか。また、足の指・爪のトラブルに悩む高齢者が多い。歩くことが困難となり、筋力低下による転倒リスク軽減のために、足の指・爪のケアの啓発を行うべきである。

**質問** 在宅療養中の急変時診療体制・ベッドの確保についての検討はどこまで進んでいるのか。

**市長** 羽村市在宅医療・介護連携推進協議会において検討を進めるとともに、市内医師会等に働きかけていく。



**質問** 在宅医療・介護サービスに関する講演会を羽村市単独で開催する予定は。  
**市長** 2月9日、コミュニティセンターで開催する予定である。

**質問** 介護予防事業にも位置付けられている「足指・爪のケアに関する事業」。更なる啓発が必要ではないか。  
**市長** さまざまな介護予防事業を活用し、周知していく。

**プラスチックごみ削減に向けての羽村市の取組みは？**  
**質問** 商工会と連携し市内飲食店のストローを紙ストロー等に替えてはいかがか。  
**市長** 啓発に努めるとともに、商工会を通じた周知に努めていく。

**質問** 3Rにリフューズ（不要なものは断る）を加え、4Rの取組みに発展させてはいかがか。  
**市長** 検討していきたい。

■その他の質問  
 「市民大学講座の充実について」





《Q》24時間利用可能なコンビニへのAED設置を  
《A》コンビニとの包括協定の進展の中で検討する

高田 和登 議員（新しい風）



民間企業との  
包括連携協定について

**質問** 災害時には、食料品や飲料品、日用品が提供される協定が重要と考えるが。

**市長** 市内民間事業者と協定を締結するなど、各方面からの供給体制の充実に取り組んでいる。

**質問** 福生市では市内の商店170店で使える「ふっさ子育てまるとくカード」を発行している。羽村市でも導入すべきと考えるが。

**市長** 同様な制度として、東京都が発行する「子育て応援とうきょうパスポート事業」があり現在実施中である。今後、積極的に周知を行う。



コンビニに設置されたAED

**質問** コンビニへのAED設置は、かつて、私などが一般質問をした。福生市では大手コンビニの店舗17店のうち14店で協力が得られ、11月に設置している。

**市長** 羽村市でも実現できると考えるが。

**市長** 24時間利用可能な場所へのAEDの設置については、今後、(株)セブンイレブン・ジャパンとの包括協定に関する協議を行う中で検討していく。

健康寿命延伸の  
取組みについて

**質問** 体力測定回数増を検討すべきと考えるが。

**教育長** 今年度は4回の体力測定を予定しており、次年度以降も同様に実施したい。

**質問** 青森市では「あおもり1000日健康トライアル」と称して、ポイント制度を実施している。検討すべきと考えるが。

**市長** 自治体ポイント制度を参考に研究していく。



《Q》マイ・タイムラインの作成支援や講習会を  
《A》作成支援し、講習会も実施に向け調整する

石居 尚郎 議員（公明党）



逃げ遅れゼロを  
実現するために

**質問** 災害時に自らが取るべき行動を時系列でまとめたマイ・タイムラインの作成支援や講習会を提案する。

**市長** 今後、出前講座や防災週間などを通じて啓発・作成の支援をしていく。講習会は、洪水浸水想定区域に住まいの皆様と連携し、実施に向けた調整をしていく。

**質問** ※『まるごとまちごとハザードマップ』の実施を提案する。

**市長** 洪水浸水想定区域にお住まいの皆様と連携し、出前講座等の機会を通じ、地域の理解を得ながら、実施に向けた調査・研究を進めていく。

**質問** 気象庁が創設した専

門知識を持った職員を自治体に派遣する、気象庁防災対応支援チーム『JETT（ジェット）』の活用を。

**市長** 市においても、避難情報の発令や応急対策を講じる際に連携していく。

神明台二丁目の  
道路政策について

**質問** 水木公園から産業道路までの川崎街道の整備について聞く。

**市長** 街路樹の撤去等による歩行空間の確保を視野に、現状幅員の中で歩行者の安全対策を図っていきたい。

**質問** 神明台加美平団地交差点の信号機設置について聞く。

**市長** 警視庁が年度内完了を目途に、交差点に押しボタン付きの信号機の設置工事を行うとのこと。



小学生でも簡単に作れるよう開発されたマイ・タイムライン検討ツール

※まるごとまちごとハザードマップ：生活空間であるまちなかの電柱等に、想定される浸水深等の情報を標識として表示する取組み



《Q》避難所となる学校体育館へ空調設備の設置を  
《A》都の補助制度を活用した設置を検討する



中嶋 勝 議員 (公明党)



台風24号では多くの倒木があり、住民は不安を感じていた

避難所となる体育館への  
空調設備設置について

暑さ対策とともに、自然災害が相次ぐ中、避難所となる学校体育館への冷暖房設備の設置が必要である。来夏に間に合うよう早急な対応を望む。

道路・公園等の  
樹木管理について

近年の倒木による被害は、

**市長** 住宅等の屋根に倒れる事故が2件発生した。

**質問** 強風時の高木への恐怖感をどう認識しているか。

**市長** 台風24号では、多くの倒木が発生し、市民からも樹木管理への要望があった。不安解消へ老木の伐採

を計画的に進める。

**質問** 安全確保や適正な管理のため、財源も含めた樹木管理計画が必要では。

**市長** 公園管理システムの導入へ研究を進めている。

市営住宅入居条件緩和等  
について

近年、身寄りのない単身高齢者が増えていることに伴い、国は公営住宅に入居しやすくするよう地方自治体に促した。

**質問** 市も連帯保証人の条件緩和をしようか。

**市長** 他自治体の動向を注視し、検討していきたい。

**質問** 単身や二人世帯の人数条件、また子育て世帯が入居しやすい条件への緩和が必要ではないか。

**市長** 世帯構成の変化等から空き部屋もある。市民ニーズに対応できるよう、人数条件の緩和や子育て世帯の優遇条件についても検討していく。



《Q》産学官連携のまちづくりに向けて更なる推進を  
《A》杏林大学と多種多様な連携事業の深化に努める



小宮 國暉 議員 (新しい風)



東京2020オリ・パラを応援しよう！  
2年前イベント in 羽村

産学官連携の  
まちづくりを推進

住みよい安心安全なまちづくりをさらに推進するため、産学官の連携を各分野・テーマ別に広めていくことが重要。

**質問** 杏林大学と包括連携協定を締結し、連携を深めてきた。現状の取組みと実績・成果は。

**市長** 「平日夜間急患センター」への医師の派遣や「羽村市事業仕分け委員の派遣」などの6つの事業で取組みを開始した。その後、相互に緊密に連携し、信頼を醸成する中で、現在、連携事業は40を超えている。市内全中学校の2年生を対

象に実施している『BLS等救命救急講習会』や、『市

のイベントにおける企画運営及びボランティア協力』など、それぞれの事業において、大学が持つ知見や、学生アイデアを十分に生かした取組みとなっており、成果が上がっている。

**質問** 2020年オリンピック・パラリンピック関連の新規事業の計画は。

**市長** 8月の「東京2020オリンピックピック・パラリンピックを応援しよう！2年前イベントin羽村」や、11月の産業祭において教員や多くの学生の参加を得て、パラスポーツ体験会を実施し、次世代につながるレガシーの創出に取り組んでいる。地域に大学がない羽村市にとり、杏林大学との連携事業は、欠かすことのできないものとなっている。

■その他の質問  
「行財政改革マネージメントの強化に向けて」「公契約(条例)制定に向けた取組みを」



《Q》動物公園にキッチンカーなどの移動販売を可能に  
《A》キッチンカーの導入など、研究に努める

西川 美佐保 議員（公明党）



羽村市動物公園の  
基本構想、基本計画を

**質問** 動物公園がリニューアルオープンされたが、市民や指定管理者からの声は。  
**市長** 市民や利用者からは、「エントランスが新しくなりイメージが良くなった」、「入り口付近が広くなり便利になった」、「シンボル看板や赤ちゃん休憩室のデザインが可愛い」との声。指定管理者からは、「管理事務所が改修されて、職場環境の改善と作業効率の向上が図られた」などの意見があった。  
**質問** スタディホールをもっと活用し、イベントの充実や市川市のモルモット・キャラバンなどを参考に雨の日でも楽しめるようさらに工夫を。  
**市長** 他の動物園等を参考に、さらに内容の充実に努める。  
**質問** 飲食できる売店が古い、民間活用での建て替えや、土日にキッチンカーなどの移動販売を可能とする



リニューアルした動物公園と赤ちゃん休憩室

るなど、動物公園をさらに人が集まる楽しい空間へ。  
**市長** 園内の売店は、老朽化が進んでおり、順次、改修を進める考えであり、民間活用での改修やキッチンカーの導入なども、研究に努める。  
**質問** スマートフォンをかざすと自動翻訳するQRコードを園内に設置しては。  
**市長** GPSを利用した公園散策機能なども開発されており、多くの公共施設で利用できるよう先進事例を参考にする。  
■その他の質問  
「買い物付添い支援でフレイル対策を」「ポイント制度で市民活動活性化を」



《Q》消費税率引き上げにより地方消費税率は  
《A》1.7%から2.2%に引き上げられる

橋本 弘山 議員（新政会）



消費税増税による  
市財政への影響について

**質問** 8%から10%に引き上げられた場合の地方消費税交付金の増収額は。  
**市長** 平成30年度予算ベースで2億9千万円の増収になるが、軽減税率制度が予定されているので正確な試算は困難である。  
**質問** その他消費税増税による歳入の影響は。  
**市長** 自動車取得税が廃止され自動車取得税交付金の減額が想定される。また、法人住民税法人税割の一部が交付税に原資化される予定のため、市民税法人分は平成32年度に2億円前後の減収の見通しである。  
**質問** 前年度決算ベースで一般会計の歳出における負担の増加額は。  
**市長** 消費税相当額は約3億1千万円となり、約6千万円の増額と見込んでいる。  
**質問** 幼児教育の無償化についての影響、変化は。  
**市長** 地方と国の財政の負

担割合が確定していないこと、実務面でも未確定な事項が多いため、現時点で具体的に答えることは難しい。  
**市民が多く集まる行事の危機管理について**  
**質問** 行事ごとの危機管理個別マニュアルの整備は。  
**市長** 各行事とも、企画段階から参加者や事業内容に応じた安全確認、悪天候時の対応など危機管理事項の確認を行っている。



市民が多く集まる「はむらふるさと祭り」



《Q》歩道における歩行者等の通行の支障とは

《A》段差が生じている状況を想定



富松 崇 議員（新国会）

**市道の維持保全について**  
**質問** 道路維持保全計画の進捗状況は。

**市長** 平成29年度から平成34年度までに実施する道路の補修延長は約1万1700メートルに設定しており、平成30年度末の進捗率は、約16パーセントとなる見込みである。

**質問** 歩道舗装補修の考え方で、歩行者等の通行の支障とは、どのような基準か。

**市長** 舗装のひび割れや街路樹の根上がりなど、段差が生じている状況を想定している。

**質問** ベビーカーやシルバーカーを利用されている方が歩道ではなく車道を通行している現状をどのように捉えているか。

**市長** 土地区画整理事業に伴う道路施設整備や、狭い道路における用地買収による道路拡幅などに、鋭意取り組んでいる。地理的な状況や土地の権利関係などで、整備改善が難しいケー



段差があり、幅も狭い歩道

スもあるが、今後このような取組みを着実に進めていくことで、歩行者の安全対策の推進に努めていく。

**質問** 西口土地区画整理地区内であっても、市民の安心・安全のため、何らかの改善を図るべきでは。

**市長** これまでも隅切り部のセツトバックの実施や、歩道脇の歩行者等の滞留スペースの確保など、可能な限りの改善を図ってきたが、引き続き、緊急性や必要性を考慮した中で、適切に対応していく考えである。



《Q》財政の硬直化が顕著である。大胆な見直しを

《A》行政のスリム化へ全事務事業を点検・見直す



富永 訓正 議員（公明党）

**これからの自治体経営をどうしていくか**

人口や税収が縮小しても地域の営みや住民生活が充実した「縮小を縮充へ」とする時代を迎え、羽村市の未来への軌道をしつかりと作り上げなければならぬ。

**市長** 複雑化する業務対応への活用に注目され、現在、自治体、国等で実証実験が進行中。注視し研究する。  
**質問** 経常収支比率の悪化で財政の硬直化が進み大胆な見直しが必要。財務体制の強化と財政健全化に向けた取組みおよび、公会計制度による財務内容の公表や幅広い活用をどうしていくか。

**市長** 新たな定員管理計画策定に取り組んでおり、「最少の経費で最大の効果を挙げ、市民満足度の高い機動的な執行体制の確保に努めていく。」

**質問** 今後AI、ICT等の活用で行政業務の自動化・省力化の必要性が高まる。今後への取組みは。

今後AI、ICT等の活用で行政業務の自動化・省力化の必要性が高まる。今後への取組みは。



市役所庁舎

■その他の質問  
 「暴風への備えをどうしていくか」



《Q》地区内の分譲集合住宅数、移転数と地権者数は

《A》移転再築3、曳家2、現位置1。地権者は112人

山崎 陽一 議員（世論）



住宅前で、騒音・振動工事が続く

**区画整理撤回要求第47弾**

**質問** 鉄筋・鉄骨コンクリート分譲住宅数と地権者数。現位置と移転再築は。

**市長** 鉄筋4棟。それぞれ8人、14人、29人、36人。鉄骨2棟、8人、17人の合計112人。再築3棟、曳家2棟、現位置1棟を想定。

**質問** 区分所有者への補償、建物積算価格、補償率算出基準は。誰と協議か。

**市長** 建物内部・外部・共有部、工作物を調査。同等建物の再築費用×再築補償率＝建物補償費。解体費等を加えて補償費を算出、持ち分に応じて補償額を按分。屋内設備、仮住居費等は補償調査し権利者に補償。並

行して管理組合と協議。

**質問** 移転から新居までの仮住まい補償期間は。

**市長** 4階建ての標準工期は引越し7日、解体2か月、仮換地使用収益後、建替え8か月、入居引越し7日の合計10か月半に中断期間が加わるのが標準。

**質問** 区分所有者に再築可能か。合意されない場合は。

**市長** 双方の合意で進めるのが基本であり、解体・再築は可能と考える。

**質問** 工事被害者への暴言が続く。「真摯に対応をする」の答弁に反しないか。

**市長** 言葉の行き違いで誤解が生じた。改めて職員に、適切な対応を指示した。

**質問** 移転補償説明書は出来たか。配布したか。

**市長** 作成し、10月から平成30・31年度の移転予定権利者に配布している。

■その他の質問

「高齢者人口最大の2040年問題を聞く」



《Q》はむらんバスを両回り運行にすべきでは

《A》難しいと考えている

鈴木 拓也 議員（共産党）



コミュニティバス「はむらん」

**コミュニティバス・はむらんを両回り運行にしよう**

これまで「羽村駅西口区画整理事業を見直して、市民要望の実現に予算をふりむけよう」と主張してきた。その具体策の一つとして、はむらんの両回り運行を提案する。

**質問** 運賃収入、西東京バスへの運行補助金等はどうか。

**市長** 運賃などの総収入が1815万6千円、歳出総額が7308万2千円。差額の5492万6千円が、西東京バスへの運行補助金である。

**質問** 両回り運行にするためには、さらにいくらか必要

になるか。

**市長** 3コースに一台ずつの車両配備が必要になり、経費は2倍近くになる。

**質問** 両回り運行にすべきではないか。

**市長** 道路の反対側へのバス停設置の場所の確保と費用負担を考えると難しい。

**日米地位協定見直しに向けて声をあげよう**

**質問** 毎年、国や米軍に対して行っている「総合要請」では、日米地位協定についてのどのような改善を要請しているのか。

**市長** 最低安全高度を定めた「航空法」など国内法を、米軍に対しても適用すること等を求めている。

**質問** 全国市長会でも、見直しに向けた運動を行うよう、取り組むべきではないか。

**市長** 全国市長会内に設置された、防衛施設周辺の自治体でつくる「防衛施設周辺整備全国協議会」で、毎年度要請している。



《Q》長期の事業の進捗状況は定期的に報告を  
 《A》情報誌「まちなみ」「広報はむら」で知らせる

水野 義裕 議員 (羽村 21)



羽村駅西口土地区画整理  
 事業の今後は その4

**質問** 当初の計画と現在で変わった点は。

**市長** 地権者数は1239人から1214人に25人減少。公園面積は約1万5千㎡が1万7千㎡に約2000㎡増加、道路面積は約12万4千㎡が12万5千㎡に約1000㎡増加。

**質問** 移転・補償の説明を受けた地権者数は。

**市長** 平成27年度以降71人に具体的な説明を実施。

**質問** これまでに実施した調査や移転等の件数は。

**市長** 建物等の調査91棟、補償額を提示43件、補償契約した件数30件、建物等の移転52棟、仮換地の使用収益を開始17件。

**質問** これまでの人件費や都市づくり公社への委託費の累計は。

**市長** 職員人件費の累計は約10億6千万円、公社への業務委託費の累計は約38億8千万円。



川崎一丁目新興多摩街道沿い

**質問** 今後2年半の間の計画は。

**市長** 今後1年半の移転・補償の説明対象権利者50人、建物等調査22棟、建物等移転44棟、仮換地の使用開始33件を予定。平成32年度については、32年度以降の債務負担行為の設定や予算に向けた手続きの際に示す。

**質問** 長期の事業の計画と実績の対比等の進捗状況は、定期的に市民に伝えるべきではないか。

**市長** 情報誌「まちなみ」や「広報はむら」でお知らせしていく。

■その他の質問  
 「行財政改革等について」「教職員の働き方改革について」



《Q》高すぎる国保税を下げるため国の補助の増額を  
 《A》東京都市長会を通じて働きかけている

浜中 順 議員 (共産党)



だれもが必要な時に、  
 必要な医療を

国民健康保険税(以下「国保税」)は、他の健康保険に比べて大幅に高く、滞納者も多い。負担を減らし、だれもが必要な時に必要な医療を受けられるようにすべきである。

**質問** 国保税を抑えるために市費から繰り入れを行っているが、それをなくす国の動きが強まっている。繰り入れを継続すべきと考えるが。

**市長** 繰り入れを当面継続しつつ、見直しを行っていく。

**質問** 国保税を納められず滞納すると保険証を取り上



公立福生病院

げられ、医療窓口で一旦10割を払うこととなる。それによって、きわめて受診が困難になり受診回数は、一般の被保険者の約30分の1となっている。病気の時はすぐに保険証を戻し、受診できるようにすべきと考えるが。

**市長** 滞納を完納した場合などは、保険証を戻している。

どの子もわかる授業の  
 準備や相談時間の確保を

多くの教員は、昼休みも一杯日程が詰まっている。そのため、わかる授業のための準備時間や、子どもの心のケアの相談時間を確保することが困難になっている。この改善を、優先的に取り組むべきである。

**質問** 多くの教員が正規労働時間外での授業準備を行っていることを、早急に改善すべきと考えるが。

**教育長** 「働き方改革推進委員会」を設置し、その中で検討している。



《Q》西多摩衛生組合を防災拠点とエネルギーセンターに  
《A》第1期基幹的設備改良工事中であるとのこと

印南 修太 議員（新政会）



武蔵野小学校の防災訓練で説明する衛生組合

西多摩衛生組合の  
これからについて

**質問** 防災拠点とするために、施設全体の強靱化を図るべきではないか。

**市長** 西多摩衛生組合では、環境センターを社会インフラとして長期にわたり有効利用するため、環境センター長寿命化計画に基づき、基幹的設備改良工事を実施し、平成50年度（2038年）までの稼働を目指している。その中で平成29年度に工事の効果を検証し、計画値を上回る設備の省エネルギー化と温室効果ガス排出量の削減が図られた。施設の防災拠点化についてもフレキシブルに、

防災倉庫と非常用マンホールトイレの整備が進められたとのことである。

**質問** 廃棄物を利用した電気・熱エネルギーの地産地消を促進するために、発電設備の改良を図るべきではないか。

**市長** 基幹的設備改良工事において、余熱利用の自家発電は、現在の定格出力1980キロワットから、平成31年度には2370キロワットに増強され、サーマルリサイクルの推進がより一層図られるとのことである。

**中学校の部活動指導について**  
**質問** 来年度以降の部活動指導員配置についてどのように考えているか。

**教育長** 教員の部活動への負担軽減を図りながら、部活動の質を高める効果もあるので、中学校の意見等も聞きながら制度化に向けて検討していきたい。



《Q》昭島市の可燃ごみ加入撤回の経過説明が必要  
《A》構成市町統一の内容を広報紙等で知らせる

門間 淑子 議員（市民ネットワーク「いきいき広場」）



昭島市の可燃ごみ  
加入撤回について

**質問** 昭島市からの加入要請取り下げの事実経過は。

**市長** 西多摩衛生組合への加入見直しの報道を受け、10月15日に緊急の構成市町長会議を開催し、昭島市長に真意を確認した。11月16日に、昭島市から「加入依頼取り下げ」が出され、同20日に構成市町長会議で加入をお断りすることを決定し、その旨を昭島市長に通知した。  
**質問** 検討結果報告書は、構成市町と昭島市の合意ではなかったのか。

**西口事業の抜本的見直しを**  
**質問** 事業計画・資金計画の公表時期は。  
**市長** 市の財政状況を考えて、国・東京都などの協議状況を踏まえ、平成32年度までに土地区画整理法に基づく手続きを進めるので、適時に示していく。  
**質問** 事業の立体的な全体像を示すべきではないか。  
**市長** 事業の理解に有効なものなので、新たな土地利用の状況を踏まえ、必要に応じて作成して行く。  
**質問** 1200事業を見直すとのことだが、西口事業はどのように見直したか。  
**市長** 行財政改革推進本部で見直しを決めたものは議員全員協議会で報告し、予算編成過程で見直すものは3月議会の予算審査の後、公表する。



昭島市清掃センター



《Q》ブロック塀改修に補助金を  
《A》補助制度の創設を検討



濱中 俊男 議員（リフレッシュ羽村）



通学路沿いの古いブロック塀

危険ブロック塀等の  
フェンスへの改修補助

**質問** 羽村市における危険ブロック塀、万年塀の現状は。

**市長** 大阪府北部地震の事故を受け、羽村市所有地の総点検を実施した。その結果、18か所の対応が必要となり、年度内にはフェンス等への取り換え工事を完了する。

**質問** 民地についてはどうか。

**市長** 所有者が未然に倒壊等を防止する管理責任がある。

**質問** ブロック塀等改修補助金の創設の考えは。

**市長** 多摩地域26市中11市で建て替えの助成制度がある。

る。国や東京都で検討している制度も注視し検討する。

※8050問題について

**質問** 市における対策は。

**市長** 中高年世代のひきこもり対策は、生活困窮者自立相談支援事業の一環として対応している。児童・青年期においては、「子どもや若者の育成支援」として相談会や講演会を開催している。中高年世代への支援は民生委員等と連携し相談へつなげる体制づくりに努めていく。

女性に対する不審者対策（公然わいせつ）について

**質問** 不審者対策は。

**市長** 「市民パトロールセンターはむら」をはじめとした見守り活動への支援、防犯関係団体相互の連携強化を図っている。

※8050問題：80代前後の高齢者世代が養っている、主に50代のひきこもりの子供からなる家族の抱える社会問題



議会 活動アルバム



11月27日、基地対策特別委員会が米軍横田基地を視察しました。米軍横田基地の概要の説明を受けたり、貨物ターミナルを視察しました。



12月20日、「羽村市の公共交通のこれからについて」と題して羽村市議会議員研修会を開催しました。

講師には、井原雄人氏（早稲田大学スマート社会技術融合研究機構電動車両研究所研究院客員准教授）をお招きしました。

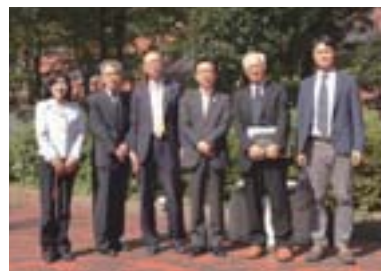


# 視 察 し ま し た

私たち市議会議員は、特徴ある施策を行って優れた成果をあげている自治体や団体に学び、羽村市が抱えるさまざまな課題などについて理解を深め、今後の行政運営に反映させるため、行政視察を行っています。

今回は、平成30年に行った常任委員会の主な行政視察の概要を報告します。

## 総務委員会



(左から) 西川美佐保委員、浜中 順副委員長、小宮國暉委員、中嶋 勝委員長、水野義裕委員、印南修太委員

### ●研究テーマ

学校教育について

### ●視察概要

● 10月15日

福生市

「教育現場への

ICT活用について」

● 10月17日

日野市

「教育現場への

ICT活用について」

● 10月18日

八王子市

「八王子市立高尾山学園

について」

## 経済委員会



(左から) 大塚あかね副委員長、山崎陽一委員、富松 崇委員長、橋本弘山委員、石居尚郎委員、鈴木拓也委員

### ●研究テーマ

商工業および観光の振興について

### ●視察概要

● 10月16日

石川県小松市

「ひととものづくり

科学館について」

● 10月17日

富山県高岡市

「企業が進める

産業振興観光について」

● 10月18日

富山県富山市

「コンパクトな

まちづくりについて」

## 厚生委員会



(左から) 富永訓正副委員長、濱中俊男委員長、瀧島愛夫委員、馳平耕三委員、門間淑子委員、高田和登委員

### ●研究テーマ

市民の健康管理および環境保全について

### ●視察概要

● 10月16日

青森県六ヶ所村

「原子力施設に対する

安全対策について」

● 10月17日

青森県青森市

「元気都市あおもり健康

づくり推進計画について」

# 総務委員会

## 学力のさらなる向上をめざしてICT教育を推進

〈福生市〉

### 授業や家庭での個別学習に活用

福生市教育委員会は「情報通信技術（ICT）を活用した教育」を前に、学校でのICTに関する調査を行い、家庭学習の時間が、全国学力・学習状況調査結果の全国平均より少ないことが分かった。

平成27年度から学力向上を目標に、慶應義塾大学、凸版印刷㈱と共に産官学のチームを組み、タブレットを使用して特に家庭学習が学力に与える影響の効果検証を実施。平成28年度に、福生市立学校ICT推進計画（5か年計画）を策定し、平成29年9月から事業をスタート。

個別学習用ドリルソフト「やるkey」を搭載したタブレット端末（iPad）450台を、市立小学校3年生全員および教員に貸与し、

主に算数に使用。予算は、初年度1300万円。授業や家庭での個別学習に活用することで基礎学力の定着や学力の向上を図っている。

「やるkey」の導入成果として、学習意欲の向上や、一人ひとりに応じた個別学習が実現、家庭学習の可視化による指導が充実した。

### 将来的には

#### 小中学生一人一台を目指して

「やるkey」が全てではなく、一人ひとりの持てる力を学校教育でどのように伸ばしていくのかが重要という考え。平成30年度には小学校、31年度には中学校の校内LAN（ラン）を整備予定。課題は費用で、将来的には小中学生一人一台を目指す。当面は小学校3年生で実施の予定。

何より端末の持ち帰りにより児童の学習意欲が高まり、繰り返し

## 自宅でもできる学習環境を児童・生徒に提供

〈日野市〉

### 各校に40台のタブレット型端末

2015年、当時の市長の決断で「自宅でもできる学習環境を提供し、成果を検証する産官学プロジェクト」が始まり、モデル校の学力調査では全国平均を上回る結果が出ている。

現在、小学校17校で9228人、中学校8校で4336人の児童生徒に対して、各校に40台のタブレット型端末を導入している。平成30年度のICT関連の予算は、約3億5千万円。

この事業の中心となっているのがICT活用教育推進室であり、室長1人・主事2人・システムエンジニア1人・メディアコーディネーター2人の6人体制で、学校現場・行政・専門家・企業を繋いでいる。

### 現在の課題

児童・生徒はタブレット型端末を抵抗なく受け入れるが、教職員の意識を変えていく必要がある。そのため、10年前から管理職ICT

研修を実施し、校長のリーダーシップによって学校におけるICT活用のマネージメント体制をつくっている。

現在の課題は、①タブレット端末などの機器は企業側から3年での更新が理想とされ、維持管理費が掛かること②何よりも教職員が多忙な為に、ICTを活用した新たな授業づくりの準備をする時間がつくれないこと。

羽村市では、平成30年度に「ICT整備計画」を策定する予定である。日野市のような先進的な取り組みを十分に調査研究し、児童生徒のためのICT環境整備が望まれる。



▲ ICT活用教育推進室長から説明を受ける



▲やる key を搭載したタブレット

の学習が可能など、個別の対応ができる点に高い効果を発揮する学習システムであることを確認できた。教育の情報化は世界の流れとなっていく中で、羽村市にとっての有効性など詳しい調査・研究を進め、計画的に進めることが望まれる。

## すべての児童・生徒が何らかの形で学校に来られるようにする取組み

### △八王子市立高尾山学園△

#### 不登校の児童・生徒のための公立学校

八王子市立高尾山学園は、全国的にもめずらしい、不登校児童・生徒のための専門の公立学校である。廃校を利用して小学4年生から中学3年生までの78人が通っている。羽村市でも不登校は長年の課題で、その糸口を探る視察である。

「不登校の児童・生徒のための体験型学校」として、平成15年の構造改革特区制度により設置が認められ平成16年に開校した。不登校になった子どもが通いやすいように、

指導要領に縛られず一人ひとりに対応した学習内容や方法にするなど、子どもに寄り添うための工夫や校内の多くに居場所をつくるなどの配慮がされている。また、児童・生徒の状況に応じて、心の安定を図りながら、適切な学習支援による基礎学力の向上と集団的、体験的な活動の機会を多く取り入れて社会性を養うことで、自信を持って生きることを目指している。

#### 個に応じた配慮

英語や音楽、体育の授業や、いつ



▲いつでも利用できるプレイルーム。気持ちを落ち着けたり、友達と遊んで元気を取り戻したりする。



▲スクールカウンセラーや心理相談員とおしゃべりできる相談室。

でも利用できるプレイルームがあり、それぞれの児童・生徒に対応した学習への配慮がなされている。民間出身の校長は、「教員も、さまざまな子どもたちに適切に対応できるように大きく自己変革をしてみらっている」と話された。こうした丁寧な指導ができるよう八王子市では、今年度も4740万円という大きな予算を使って市嘱託の心理相談員4人、非常勤講師4人をはじめスタッフを拡充している。

#### 適応指導教室からの進化

不登校の子どもたちを通常の小中学校に通えるようにするための適応指導教室は、羽村市のハーモニースクールはじめ多くの自治体にある。適応指導教室を進化させたものが、この学園。八王子市では適応指導教室と、この学園によつて多くの子どもたちが自立していつている。羽村市単独で設立できなくとも、西多摩地域で協力して設立に向け、調査・研究する価値がある。

## ものづくり精神の継承と科学技術意識の啓発を

△石川県小松市▽

### 石川県小松市のまちづくりテーマの一つ「科学と交流」のシンボル施設として、「サイエンスヒルズこまつ」が平成26年3月に誕生。この施設は二つの施設で構成されている。一つは、地元根ざした企業と連携し、学校教育で学ぶ科学の原理原則が、製品とどのように結びついているのかを分かりやすく体験できる施設「ひととものづくり科学館」。もう一つは、初めてビジネスを行う創業者や、新産業創出・新分野進出に取り組む企業の拠点となる施設「こまつビジネス創造プラザ」。今回は、「ひととものづくり科学館」を訪問した。

科学館は次代を担う子どもたちに、ものづくり精神の継承や科学技術に対する意識の啓発を推進す



▲国際宇宙船「きぼう」内部の縮小模型

ること、ものづくりや科学技術に関する興味や関心を醸成し、地域の活性化や産業振興に資する目的で設置された。屋内は、「体験型展示場」「実験室」「工作室」「3Dドームシアター」「イベントホール」で構成され、平成29年の入館者数は約12万5千人となった。また、市内企業と連携した科学実験やものづくり体験ができるイベント・体

験教室も数多く開催され、市内小中学校の授業でも利用されている。羽村市もこれまで職住近接のまち、製造業の産業集積地として発展してきた。羽村市の将来を見据え、これからの市内企業との連携

をどのように図っていくことが必要なかを、考えることが出来た視察であった。

## 400年伝わるものづくりの技

△富山高岡市▽

### 企業が進める産業観光

(株)能作は、大正5年創業の鋳物製品メーカーであり、高岡市新分野開拓チャレンジ事業補助金の交付実績もある。仏具、茶道具、花器を主力商品として製造してきたが、時代の流れと共に需要が低迷。平成12年から新たなものづくりへの挑戦を始めた。真鍮の風鈴のヒットを契機に純度100%の鋳物の開発に成功。各種テールウェア製品、アクセサリーが幅広い層の顧客の心をつかんだ。錫の抗菌作用を利用した医療製品の開発もスタートし、富山を代表する鋳物製品メーカーとなり、販路を国内

の主要都市、海外にも拡げている。平成29年に本社、新工場の竣工に伴い、高岡オフィスパークへ移転と共に、産業観光部を設置し、産業観光の取組みを開始した。「ものをつくるだけでなく「こと」と「こころ」を伝えるをコンセプトに工場見学は勿論、鋳物製品体験、カフェ、観光案内スペースを併設。昨年の来訪者は10万人を超えたという。鋳物体験は8種のメニューを用意し、作ったものを当日に持ち帰ることができるのが魅力。夏休みは子どもたちで溢れるという。カフェでは能作の器を使用し、富山の食材を使用した料理で暮らしが楽しくなる器の使い方提案。

## 公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり

〈富山県富山市〉

団子と串の都市構造を目指す

7市町村が合併した富山市の人口は約41万人、その面積は羽村市の約124倍の1241km<sup>2</sup>、県庁所在都市の中では全国で最も低密度な市街地である。また、富山県は自動車保有台数が全国2位、富山市も過度な自動車依存により公共交通の衰退を招き、路線バスなど身近な公共交通機関の利用者が大幅に減少した。その結果、市民の約3割を占める「車を自由に使えない人」、高齢者、女性にとつて極めて生活しづらい街となった。



▲中心街の路面電車網は市民の足



▲市役所前のレンタサイクル。中心市街地23か所にステーションがあり、市民の足として浸透。

この状況を受け、富山市は鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、行政機関、文化等の都市の諸機能を集中させることにより、公共交通を軸にした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを実現させた。その基本方針は「団子と串」の都市構造である。「串」は公共交通であり、「団子」は「串」で結ばれた、歩いて暮らせるまちづくりを目指す。

### 公共交通沿線への居住推進

具体的な取組みとして富山駅を中心に放射状のネットワークを形成し、鉄軌道7路線、路線バス90路線が整備された。そして中心市街



食を通して、富山の魅力を伝えていく。シヨップでは限定品や富山の老舗菓子店とコラボレーションした商品を販売。私たちが視察した日も、多くの来訪者が工場見学後に買い物や、カフェで食事を楽しむ姿を見かけた。カフェやシヨップの利用で観光消費もあり、また口コミで来訪者の拡大に繋がるさまを実感した。羽村市も「ものづくり」の街である。産業から始まる観光施策について一考の余地が



▲伝統産業「鑄物」製造工程の見学コース

あると今回の視察で考えた。

地居住推進事業実現のため、建設事業者支援として共同住宅建設費補助を一戸あたり35万円、宅地整備補助を一区画あたり50万円、また市民向けの支援として戸建て住宅・分譲住宅建設・取得補助を一戸あたり30万円の助成などさまざまな施策を実施している。

### コンパクトなまちづくりの効果

地域自主運行バスの運行に関して、市の負担軽減を図るため、自主運行を推奨し、地域住民や地元企業が費用の一部を負担する運行が

実施されている。運賃、協賛金、市の補助により費用を賄っている。羽村市の公共交通の活性化にも参考になる。コンパクトなまちづくりのさまざまな施策により中心市街地の歩行者数や転入人口の増、空き店舗数の減等の効果が顕著に表れている。しかし、中心市街地以外の地域の過疎化や高齢化による農業の衰退などの課題も多く抱えている。

## 原子力施設に対する安全対策について

### 〈青森県六ヶ所村〉

#### 原子燃料サイクル施設

青森県六ヶ所村に建設されている原子燃料サイクル施設は、全国の原子力発電所から出された使用済み燃料を再処理し、ウランとプルトニウムを取り出し、再び、原子力発電所で使用するための大規模工場である。再処理工場の操業開始に向け、MOX燃料工場の建設も進んでいる。

敷地面積750haの原子燃料サイクル施設には、ウラン濃縮工場、高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター、低レベル廃棄物放射性埋設センターが操業し、再処理工場は試験的再生処理を行っている。村の北側には東北電力東通原子力発電所が立地し、南は米軍三沢基地に隣接している。

東海村JCO臨界事故や福島第

1 原発事故の教訓を踏まえた、放射性物質への安全対策・防災対策について視察した。

#### 原子力施設に対する安全対策

村役場の原子力対策課から、原子力施設の概要、安全対策、防災対策、広報及び住民対策の説明を受けた。

#### ① 日本原燃との安全協定

村民の安全を守る立場から、青森県とともに事業者である日本原燃と安全協定を締結している。

協定では「放射性物質等により周辺地域に被害を及ぼさないための措置、情報公開、報告義務、立入調査」などを定めている。モニタリングステーションなどによる空間放射線量等の常時監視や分析などは、青森県と事業者が実施し、「青森県原子力施設環境放射線等監視評価

委員会」で審議・評価し、定期的に公表している。隣接する東通原発とも、安全協定を締結している。

#### ② 防災対策

村内には原子力施設が立地し、東通原発にも隣接していることから、六ヶ所村地域防災計画（原子力篇）を策定している。原子力施設での火災、臨界事故、過酷事故を想定し、災害予防対策、災害応急対策、災害復旧対策を定めている。平成3年からは、原子燃料サイクル施設を対象とした防災訓練、平成15年からは東海村JCO事故の影響から住民参加の避難訓練、平成24年からは東通原発を対象とした広域避難訓練を実施している。広域避難先は約120km離れた弘前市で、各世帯が家用車で避難することのことだった。防災ガイドが全世帯に配布され、原子力災害の際に安定ヨウ素剤が配布されることを周知していた。

#### 再処理工程の説明を受ける

六ヶ所原燃PRセンターでは、映像や大型模型で再処理工程の説明を受けた。強い放射能を帯びた高レベル放射性廃棄物は、ガラス

材料を混ぜ合わせて冷やし固め、ガラス固化体にして地下300mに30年間埋設した後、最終処分する。しかし、最終処分地は決まっていない。また、全国の前発から使用済み燃料を海上輸送する際の鋼鉄製の容器（キャスク）も展示されていたが、実際の輸送は非公開で行われている。

高レベル放射性廃棄物も低レベル放射性廃棄物も、共に貯蔵の限界が見えているとのことだった。東京都や関東地区に送電するため、世界最大の東京電力柏崎刈羽原発が稼働されれば、使用済み燃料の行き先に黄色信号がともるのではと感じた。



▲使用済み燃料からウランやプルトニウムを取り出す工程を紹介した模型

## 元気都市あおもり健康づくり推進計画について

〈青森県青森市〉

平成18年に中核市となり、保健部に青森市保健所が設置され、保健予防課、生活衛生課、健康づくり推進課の機構となり、今回の視察テーマからの担当課となる健康づくり推進課から説明を受け、意見交換を行った。

### 平均寿命アップへの挑戦

青森市は、全国に比べて平均寿命が短く、生活習慣病による死亡率も高いことなどの健康課題があった。地域における健康づくり運動や生活習慣の改善などに、より一層取り組む必要があるとし、健康づくりに関連する施策を総合的かつ効果的に推進するために、健康づくりの計画策定の準備を進めてきた。



▲元気都市あおもり健康づくり推進計画

そのような中、平成25年7月に厚生労働省から、青森市の男性の平均寿命が全国ワースト4位、県内では最下位となったことが公表された。健康づくりの取り組みは待ったなしの状況となり、市では、多くの市民とともに健康づくりの機運を高めるため、「市民健康アップ宣言大会」を開催。地域や学校、企業等や協会健保、各種団体とともに「元気都市あおもり健康アップ推進会議」を立ち上げ、市民総ぐるみの健康づくり運動をスタートさせた。

これらの取組みを土台づくりとしながら、市民の健康づくりのさらなる充実を図り、ひいては短命市返上につなげるため、「元気都市あおもり健康づくり推進計画」を策定。その全体目標を「健康長寿の元気都市あおもり」とし、生活習慣病や働き盛り世代での死亡率の減少と平均寿命の延伸を図り、一人ひとりが健康について学び、行動する力を持ち、社会全体で支え合いながら健康づくりに取り組むこと

とした。平成26年10月から平成32年度までの計画としてスタートし、その後も改定に向けて精査中とのことだった。

### 計画による取組みは

計画の方向性は5つ。①市民のヘルスリテラシー（健康教養）の向上。②生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底。③生涯を通じて健康であるための生活習慣づくり。④社会生活を営むために必要な心身の機能の維持・向上。⑤地域における健康づくり運動の促進と健康を支え守るための環境づくり。

方向性ごとに指標項目と目標を設定し、定期的に進捗状況を確認しながら取組みを進めてきた。

### その結果、成果がはつきり

平成22年に76・5歳であった男性平均寿命が、平成27年には78・9歳と2・4年の伸びとなった。全国ワースト4位が50位へ、県内最下位が10位へと着実に成果が現れてきている。

### さらに、楽しみながらの工夫が

取組みのひとつでもある「あおも

り1000日健康トライアル2018」では、①個人の宣言通りの運動・食生活の達成。②ポイント対象店で健康メニューの食事。③各種健診・検診の受診。④地域のラジオ体操への参加。⑤対象健康講座への参加。⑥アンケートの回答。これらによりポイントが獲得できる。獲得ポイント数に応じて宿泊券や入浴券等のチケットなど各種お楽しみ賞品が応募により獲得できるというもの。これには老若男女の誰もが参加でき、人気が高いという。賞品はすべて企業や団体の協賛によるもので市ではパンフレット等の印刷代への支出程度であることが印象的だった。



▲ポイントを貯めてお楽しみ商品に応募ができる取組み

# しぎかいカレンダー

## ● 3月定例会の予定 ●

日	月	火	水	木	金	土
2/10	11	12	13	14	15 陳情△	16
17	18	19 議運	20	21	22	23
24	25	26	27 本会議	28 本会議	3/1 本会議	2
3	4 予特 (補正)	5 本会議	6	7 常任委	8 常任委	9
10	11 予特	12 予特	13 予特	14	15	16
17	18	19 本会議	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

- 陳情△… 請願・陳情の3月定例会審議予定分の締切
- 議運… 議会運営委員会
- 常任委… 常任委員会（総務、経済、厚生）
- 予特（補正）  
… 一般会計等予算審査特別委員会（平成30年度補正予算）
- 予特  
… 一般会計等予算審査特別委員会（平成31年度予算）

\* 会議の予定は変更になる場合があります。  
詳細は議会事務局までお問い合わせください。

「羽村市議会平成30年12月定例会中継」において、映像が一時中断したとの報告が多摩ケーブルネットワークからありました。ご迷惑をおかけいたしました。

【広報委員会委員】  
小宮 國暉（委員長）  
山崎 陽一（副委員長）  
浜中 順 印南 修太  
富松 崇 中嶋 勝  
大塚あかね 西川美佐保

（印南）

「立春」とは名のみの寒さであり、羽村市が誇る桜の開花が待ち遠しい季節となりました。  
さて、今年は統一地方選挙の年です。広報委員会では、市民の皆様にもまちづくりへの関心をさらに高めて頂きたいという想いで情報発信に取り組みでまいりました。  
今号も皆様にとって「わかりやすい・読みやすい・親しみやすい」紙面になっているでしょうか。今後さまざまな視点から検討改善し、市民の皆様が「羽村市の現状」を的確に把握していきたいと思えます。

## 議会を見よう！知ろう！

### ～次の定例会は3月～

本会議でどんなことがどのように話し合われているのか、様々な手段で知ることができます。皆さんの暮らしに直結していることばかりです。ぜひご覧ください。

- 1 **議場で傍聴 ーライブで！**  
当日、直接議場へおいでください。
- 2 **ケーブルテレビで生中継**  
TCN 多摩ケーブルネットワークで、本会議の様子を生中継でご覧になれます。放送日は横のカレンダーをご参照ください。
- 3 **インターネットで録画中継**  
開催日の3日後から、インターネットで録画中継を見ることができます。
- 4 **会議録で読む**  
議会終了後2か月程度で会議録ができあがります。冊子または、羽村市公式ウェブサイトから見ることができます。

羽村市公式サイト

<http://www.city.hamura.tokyo.jp/>

羽村市議会

検索



## 編集後記

発行／羽村市議会 編集／広報委員会

〒205-8601 東京都羽村市緑ヶ丘5-2-1 Fax 042(555)0889

Tel 042(555)1111 (内線 412～414、416)



「ぎかいのトビラ」は再生紙を使用しています。